

小論文

慶應義塾大学 経済学部 1/3

＜総括＞

試験時間	60分	総解答字数	600字
------	-----	-------	------

リベラルと保守とは民主主義社会の政治の二大潮流だが、その意味内容は時代を下るにつれて大きく変容する。課題文はハイエクという自由主義の経済学者が著した文章で、保守主義者に対してきわめて点が辛く、保守主義という政治思想が極端に否定的に描かれている。政治思想において一概に「保守」と言っても、時代によってその意味するところは違いがある。少なくとも1970年代以降の欧米の保守主義は経済学上の新自由主義と結びつき、一般に政府権力による経済への介入に否定的で、市民の自律と自立を尊び、政府権力への依存と権力の濫用を厳しく批判するものであった。ハイエクはそれ以前の時代にあって（課題文の原著は1960年に公刊されている）、保守主義と権威主義とを結びつけ、ハイエクが嫌悪するナチズムやソ連社会主義といった全体主義と同様のメンタリティをもつものと特徴づけている。

そしてこのハイエクによる保守主義者の規定は、現在の米国のトランプ政権における「保守主義」をそのまま記述したもののように読める。欧米諸国、とくに米国は2010年代以降、ポピュリズムの風潮が顕著であり、そのときいわゆる「右」の側の政治家が「保守」を名乗りつつ、新自由主義以降の保守主義者とは違って、権威主義的かつ権力主義的で、カリスマに対する権力集中と経済活動への介入に積極的な保護主義的政治思想を宣伝したのである。かれらは保守主義の名の下に、マイノリティに対するDEI政策など従来リベラル派が推進してきた社会の革新に向けての取り組みを、社会の公序良俗を乱すものとして攻撃し、ある特定の道徳観（それは伝統的家父長主義の色彩が濃い）を人々に強制しようとする。

2025年に始まった第二次トランプ政権の政策をふまえて、慶大経済学部はこの問題を出題したのだと考えられる。興味深いのは、ハイエクの保守主義者を厳しく批判する議論の論点を設問Aで「網羅的に」説明させ、リベラル派による保守主義者への批判を受験者にきっちり刷り込んだうえで、自由な見解論述を求める設問Bでは自由主義者の立場に限定して論じることを求めている点である。従来きわめて右派的な国家観をもつ政治家である高市早苗首相への個人的人気で自民党が圧勝し、事実上国家権力の大半を首相に委任してしまうことになった今次の総選挙を振り返ってみると、課題文の「もし政府が立派な人間の手にゆだねられるならば、厳格な規則によって抑制しすぎてはいけない」とかれらは信じている。本質的に日和見主義者であり、原則を欠いているため、かれらの第一の望みは賢人と善人が支配することである」という辛辣な指摘は、かかる選挙結果を招いた日本の有権者にとって耳の痛い話であろう。とくに若年層で保守化が進行し、イノベーションへの熱意を失って、むしろ特定の政治的指導者に強大な権力を授権して日本の国益と自分たちの利益の保護を求める傾向が強まっていることに対し、本質的に自由な資本主義経済の創造性と調整力を信じている慶大経済学部の経済学者たちからの警告と思えるような問題となっている。

＜課題文の分析＞

大問番号	
内 容 (主題)	保守主義への批判と自由主義による問題の解決
出 典 (作者)	F.A.ハイエク著、気賀健三・古賀勝次郎訳『自由の条件 [III] 福祉国家における自由』春秋社、2007年
長短・難易等 前年比較	長短（短い・やや短い・ 変化なし ・やや長い・長い） 難易（易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化）

小論文

慶應義塾大学 経済学部 2/3

＜大問分析＞

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント（設問内容・論述ポイントなど）
	課題文	学部系統的	A	説明	200字	下線部A 「保守主義者は変化を妨げ、自分たちのやや臆病な心に訴えるものにたいしては、その速度を限定するために政府の権力を使用する傾向がある」の要因となりうる保守主義者の特徴を、自由主義者との違いに着目し、本文の趣旨に沿って網羅的に説明する。
			B	論述	400字	下線部B 「悔い改めた社会主義者が新しい精神的な棲家を自由主義の囲いよりも保守主義の囲いのなかに求めやすい」について、なぜそうなるのか、本文の趣旨に沿って説明したうえで、「自由主義の囲い」と「保守主義の囲い」が下線部Bで書かれた意味で対立する具体的な問題の例を日常生活や社会問題などから自由に設定し、自由主義者であればその問題についてどうするかを、理由を示して論じる。

※出題形式は「テーマ・課題文（英文を含む場合は付記する）・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

＜答案作成上のポイント・学習対策等＞

＜答案作成上のポイント＞

設問Aは、課題文の抜粋で答案を書くことができるが、わざわざ「本文の趣旨に沿って網羅的に」説明せよ、とあることに注意。課題文は同じことをくり返しつつ、議論を先に進めており、したがって不注意に抜粋すると同じようなことを重複して書いていて、多様な論点を網羅した要約にならないことがある。同じようなことを論じている文のうちで最も端的に簡潔に述べているものを選択して集めることによって解答を構成し、網羅的な要約をつくるなければならない。

設問Bについて。ハイエクが下線部Bで想定している「社会主義者」とは、ソ連や中国の社会主義的計画経済を信奉する人々だろう。課題文は1960年に公刊されたものだが、その後中国は毛沢東の死とともに1979年、資本主義的市場経済への転換に踏み切ったのであり、その背景には社会主義的計画経済が大失敗に終わり、貧困と飢餓、停滞しか生まなかつたという事情がある。かくして社会主義者は「悔い改め」たのであるが、しかし中国にせよソ連解体後のロシアにせよ、現在では権威主義的体制が維持され、個人の政治的自由は蹂躪され、いわゆる「国家資本主義」と呼ばれる体制が選択されている。「保守主義の囲い」では、課題文の論じるところでは権威主義が強く維持され、そして最も賢明にして善良なる政治的指導者がよき統治を実現するという個人崇拜が行われる。そして個人の政治的自由は社会全体の利益のために犠牲にされてもよいという思想が陰に陽に保持される。国家資本主義を志向する旧社会主義者にとってはこうした「保守主義の囲い」が都合のよいものであったことを説明する。

次に『自由主義の囲い』と『保守主義の囲い』が下線部Bで書かれた意味で対立する具体的な問題の例』としては、トランプ政権下紛糾し混迷を深める米国の直面する社会問題を見れば、その例には事欠かない。「日常生活や社会問題などから自由に設定し」とあるが、日常生活の事例を挙げて書こうとしてもいい答案は書けない。移民排斥、DEI政策の否定、関税を用いた保護貿易政策、インフレ、拡大し続ける経済格差、さらには国際協調行動に背を向け自国の権益だけを守護しようとするドンロー主義などのうちのいずれかを挙げて、トランプ政策に典型的に表現されている、課題文の論じる保守主義が、自由主義者にとっては決して受け入れられないことを説明する。そのうえで、問題解決のために自由主義者はどのような政策を採用すべきか、これを少しでも明確にできれば解答になるだろう。